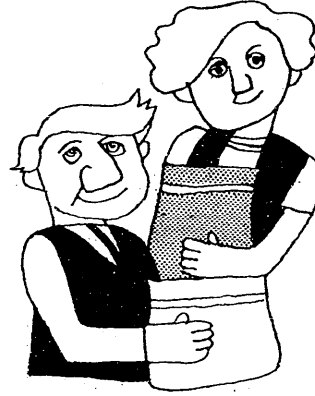


## 貧困の機能分析

### —Herber J. Gans の研究—

(アメリカ)



H. J. ガンスは、現在、コロンビア大学教授で、これまでとくに都市計画に関して精力的かつ綿密な調査研究を行ない、注目すべき多くの著書・論文を発表してきている。ここに紹介する論文は、そうしたこれまでの研究の過程、とくに、スラム地域の下層労働者の実態把握の過程から生まれた機能主義的な貧困研究の理論を展開したものである。

さて、ガンスは、R. K. マートンによる政治的ボス組織についての機能分析にならい、貧困は、政治的ボス組織以上に非難さるべき持続性のある社会現象であるところから、マートンの機能分析の方法を貧困に適用できる

と考え、一定の集団、とくに、貧困者以外の人々にたいして貧困ならびに貧困者をもつ潜在的機能を検討して、その順機能と逆機能を分析的に導き出すとともに、こうした貧困者のもつ機能に代替しうる「機能的選択項目」をも合わせて追究し、もって機能分析の有効性を検証しようとするのである。

ガンスは、アメリカ社会では、貧困ならびに貧困者は、貧困でない人々にたいして、次のような15の経済的機能(1)~(4)、社会的機能(5)~(10)、文化的機能(11)、(12)ならびに政治的機能(13)~(15)をもっているとい

う。

(1) 貧困者は、不潔な労働、危険労働などの「いやな仕事」を行なってくれる。実際、アメリカでは、貧困は、このいやな仕事を低いコストで喜んでやってくれる—いや、むしろ、喜んでやらざるをえない—低賃金労働のたまり場としての機能を果しているのである。

(2) 貧困者は、自らの低賃金労働によって、富裕な者を利する活動や、州や地方政府に、結果的には、補助金を与えるのと同じ機能を果している。

(3) 貧困は、貧困者にサービスを与えたり、あるいは、貧困者から貧困でない人々を防護する、数多くの職種を創り出し、そうした職業を盛んにさせている。

(4) 貧困者は、貧困でなければ欲しがりもしないような商品を購入して、その商品の経済的有用性をひき伸ばしてくれるし、また、富裕な人々からは見離された老いぼれた、訓練不足の、あるいは、無資格の医師や弁護士や教師に所得を稼がせてくれている。

(5) 貧困者は、逸脱者と同一視され、処罰

されることによって、逆に、支配的な規範の合法性を支持している。

(6) 他方、能力がなく、不運にあえいでいるが故に報わるべき価値があるとされている貧困者は、同情、哀れみ、慈悲心を呼び起こし、貧困でない人々に情緒的満足を与えている。

(7) 貧困者は、富裕な人々を、放縦な性的行動やアルコール中毒や麻薬中毒などへ代償的に参加させる役割を果たしている。

(8) 貧困は、貧困でない人々の地位を守るのを助けている。とくに、労働者階級にとって、地位を比較するための一つの尺度として機能しているのである。

(9) 貧困者は、また、貧困でない人々の上昇移動を手伝っている。貧困者は、教育の機会を拒否した者だとか、愚か者ときめつけられたり、教をきかない者だとされることによって、実は、他の人々によい職を得させ、ひいてはその人々の上昇移動を助けているのである。

(10) 貧困者は、たとえば、中流階級の市民組織や婦人団体など、非経済的集団の社会的

生存能力を増進せしめている。

(11) 貧困者は、文化的機能もいくつか果している。彼らは、「文明」の創造にたいして声なき暗黙の役割を果たしてきたのである。

(12) 貧困者のために、あるいは、貧困者によって作られた文化は、屢々、富裕な人々に借用されている。ほとんどのアメリカ人は、南部諸州の貧困者の間から生まれたジャズやブルースや黒人霊歌を享受しているのをみてもわかるとおりである。

(13) 貧困者は、政治的集団にとっては、象徴的な支持者、あるいは、反対者として役立っている。革命的左翼も、保守的政治集団も、その政治的信条は、貧困者なしに正当化することのできないものが多い。

(14) 貧困者は、権力を保持しえないままに、アメリカ社会の成長と変動の経済的ならびに政治的コストを支えさせられている。

(15) 貧困者は、アメリカ政治の形成過程に重要な役割を果たしてきた。つまり、彼らは、アメリカの政治を中央集権的たらしめ、安定化したことに寄与してきたのである。

さて、次に、ガンスは、以上15の機能に代りうる機能的選択項目の可能性を検討する。

(1)の機能は、オートメーション化や妥当な賃金の支払いによって代替可能なはずであり、(2)の機能も、貧困者の存在を必然たらしめるものではなく、代替可能である。しかし、その場合には、当然、コストは引き上げられるから、この機能的選択項目は、明らかに富裕な人々にたいしては逆機能をもつものとなる。 (3)の機能も、多くは代替しうることは明らかである。だが、(4)の機能は、多分、貧困者なしにはその一部は存在しないであろう。(5)~(7)の社会的機能は、経済的機能よりは容易に、安上がりで代替されうる。現に、たとえば、規範からの逸脱の機能は、ヒッピーや若者たちが果してきている。しかし、地位と移動にかかわる貧困者の機能(8)、(9)は、階層制社会である限り、代替困難な機能であり、貧困解消にとって一つの障碍である。また、中流階級の博愛的、宗教的集団の対象としての機能(10)も、経済的、非経済的に不平等である限り、消失することはない。(11)と(12)の文化的機能は、代替される必要のない機

能である。しかし、(13)、(14)の政治的機能は、代替困難である。貧困者の所得の増加は、権力の増大を伴なうであろうし、もし、一たび貧困者がそれほど貧困ではなくなれば、人々は成長と変動のコストを支払うことに抵抗するようになるであろうからである。また、(15)の政治的機能も、全く代替不可能である。

結局、貧困者の機能のなかには、代替不可能なものや代替可能なものがあるわけであるが、可能だとしても、それは、とくに、富裕な人々にとっては、高いコストがつきまとうものである。したがって、ガンスは、貧困が持続するのは、それが多くの機能を果たしているからであるが、同時に、貧困の機能に代りうる機能的選択項目が、社会の富裕な人々にたいしては全く逆機能をもつものであるからに他ならないという。

ところで、機能分析は、保守的イデオロギーの立場を支持するものであるとの批難を受けてきたが、もともとは中立的である機能分析が、このように批難されるのは、機能分析の結果は、解釈する者の立場によっていかよ

うにもなると同時に、Davis と Moore の分析にみられるように、これまでの機能分析が、逆機能の側面を脱落した不完全な分析にとどまっていたからであるとガンスは主張する。しかし、機能分析が完全を期すためには、なお、代りうる機能的選択項目自体が検証されなければならないのであって、それは、この分析の残された課題でもある。さらに、ガンスは、すすんで、このような機能分析から導かれる結論は、窮極的には、ラディカルな社会学者の結論とさほど違わないものであるとして、次のように結論づけている。すなわち、「富裕な人々にとっては機能的であり、貧困な人々にとっては逆機能的であるような社会現象は存続する。また、代替しうる機能的選択項目によるかかる現象の解消が、富裕な人々にとっては逆機能を生むときには、そのような現象は存続しつづけるであろう。さらに、貧困のような現象が解消されるのは、それが富裕な人々にとって十分、逆機能的となるか、あるいは、貧困者が社会的成層体系を変革するだけの力をもつことができるときだけである。」と。

なお、最初にも述べたように、ガンスのこの研究は、それまでの彼の研究と関係づけてみると、一層、理解し易くなるように思われるので、ここに紹介した論文の題名と出所を示したあとに、二・三の文献を加えて、読者の参考に供したいと思う。

Herbert J. Gans, *The Positive Functions of Poverty*, *American Journal of Sociology*, Vol. 78, No. 2, Sept. 1972, pp. 275—289.

#### 参考文献

1. Herbert J. Gans, *The Urban Villagers*, The Free Press, New York, Collier-Macmillan Co. Ltd, London, 1962.
2. Herbert J. Gans, *People and Plans*, a Pelican Book, 1968, 1972.
3. Herbert J. Gans, *Social Planning and Urban Poverty* in P. Lazarsfeld, W. Sewell and H. Wilensky, (eds.), *Uses of Sociology*, New York: Basic Books, 1967, pp. 437~475.

(渡辺益男 東京学芸大学)